

I. 開催概要

2017年3月27日(月)16時00分～16時50分 キッズステーション本社会議室

II. 出席者

1. 審議委員 : 6名

鵜沢由美子 (明星大学 人文学科 人間社会学科 准教授)
蛭原英里 (チャイルド・ボディ・セラピスト)
菅谷 実 (慶應義塾大学名誉教授)
高芝利仁 (弁護士)
田口成光 (脚本家・放送作家)
大地丙太郎 (アニメ監督)

[50音順;敬称略]

2. 事業者側 : 6名

[経営] 山本 雅 (代表取締役社長CEO)、山中崇之(取締役COO)
[編成] 生駒裕之(編成部長代理)、島 完成(広告営業部長代理)、
[事務局] 飯野博之(経営企画室長兼広報室長)、孫 英活(広報室長代理)

III. 議事内容

1. 社長挨拶 株式会社キッズステーション 代表取締役社長CEO 山本 雅

本日は第4回番組審議会にお集りいただき有り難うございます。さて、先日報道発表されておりますが、3月31日付でキッズステーションとアニマックスは三井物産とソニー・ピクチャーズエンタテインメントの共同設立・運営による事業持株会社AK Holdingsの傘下となり、アニマックス代表取締役である滝山正夫氏が当社代表取締役社長に就任いたします。今回をもって、現体制による番組審議会は一旦終了となりますが、これから合評いただく「ロボット教室TV 第3話」については、忌憚ないご意見をいただければ幸いです。

2. 番組審議 司会進行: 田口成光 対象番組 「ロボット教室TV 第3話」(30分)

- ・放送日時 :2017年3月5日(日)18時～18時30分 他
- ・ターゲット :小学生ならびに幼児(5～6歳)

① 「ロボット教室TV 第3話」合評: 委:番組審議委員/局:キッズステーション

局: 実は数年前に娘の教育にと思い、購読を始めた朝日小学生新聞に掲載された広告を見たのがきっかけで、ヒューマンアカデミー社のロボット教室全国大会を番組化できないかと考えたのが、「ロボット教室TV」制作の原点となります。これまでの経緯としては、先ず同社とは協賛広告スポンサーとして、当社の別の小学生向け番組に出稿いただくことから関係が始まり、徐々に同社主催のロボット教室全国大会を番組化する方向に話し合いが進んでまいりました。

そして、昨年夏に東京大学で開催された全国大会の様相を番組にしたのを皮切りに、ロボット作りの楽しさを子どもたちに伝える教室を取り上げた番組として、全国のロボット教室を訪れ、全国大会上位入賞候補の子どもたちの密着取材を行い、大会予選に挑むまでの奮闘ぶりと全国大会後の様相も丹念に追いかけてきました。

ロボット教室はロボット作りを通して、子どもたちの発想力や創造力を引き出し、個性があり、能力ある子どもを育てる教室として現在注目を集め、年々受講者が増えてきております。

尚、同教室の学習カリキュラムを開発し、監修に当たられているのが、ロボットクリエイターとして著名な、東京大学先端科学技術研究センター特任准教授などを務める高橋智隆氏になります。

委：「ロボット教室TV」は年間何本作られたのでしょうか。個人的な感想としては、今回見させていただいた番組では、小学6年生であどけなさが残る武田君の作ったお散歩ブタさんを取り上げているところが、一番印象に残りました。ところで、武田君のロボットと同じものを教室の先生がまねて作ったというところは、どういう意図があったのでしょうか。

他の部分に関して言えば、例えば、ロボットを作る過程をもっとしっかり捉え、よりわくわく感を出すとか、この教室に通いたいと思えるような番組構成・編集がもう少しできたのではと思いました。また、教室の先生が話される部分は、ある程度ナレーションで簡素にまとめ上げられたと思いますし、高橋智隆氏自身が登場して解説される部分があったらもっと面白くなったのではないのでしょうか。

局：本年度「ロボット教室TV」は都合4本制作されました。全国大会を中心に、直前の有力優勝候補者を追った番組が1本、全国大会の様相を番組化したものが1本、高橋智隆氏の開発したロボホンの製造現場を見学した内容の番組が1本、そして今回合評対象となっている、教室の様子を取り上げた番組となります。

今回ご覧頂いた番組には、あいにく高橋智隆氏は出演しておりませんが、今回の合評対象ではない過去の「ロボット教室TV」に出演して、子ども達が作ったロボットについて解説した部分については特に好評を博しております。

武田君のロボットをまねて同じものを作ったロボット教室の先生の意図についてご質問がありましたが、教室の先生としては、全国大会で優勝した生徒の作品と同じものを教室にディスプレイすれば、他の生徒達の目標となり、励みにもなるのではないかという意図があったと思います。

委：これまで見てきたキッズステーションの子ども向け合評番組とは違う印象を受けました。番組の作りとしては、大人に向けて情報を発信しているところが多かったように見受けました。もう少し子供目線で、全く何も作ったことがない初心者の子どもが、悪戦苦闘しながらロボットを作り上げるところまでを捉え、ロボットを作る過程をじっくり見せれば、子どもたちにとってもう少し楽しく想像を膨らませることが出来るのではと感じました。

また、子どもたちが今作っているロボットに取り組んだきっかけなど、子どもたち自らに話してもらい、

説明してもらった場面があってもよかったのではないかと思います。

委： もの作りを小さいころから学べ、そして作ったものが完成した際に、自らの操作により動かせるという楽しさは、とてもよい経験になるのではと思いました。

ただ、番組の多くの部分、途中に入るCMによって、全体的にインフォーマーシャルのような作り込みになっていると感じました。これにより本番組は、見る者によって受け止め方がまちまちになっているのではないかと思います。

局： 本番組の意図、よさを伝えるには、先ずロボット作りを習う教室のことなのか、ロボットの出来を競う全国大会のことなのか、それらが一目で分かる番組名とし、番組内容がストレートに伝わるよう、今後はすっきりしたタイトルにすることが大事かと思います。例えば、スポンサー名が番組タイトルとして始まっているところを **presented by** として後に置くとか、改善の方法はいくつかあると思います。

委： アメリカでは、放送に関わる政策が日本の規制と比べ緩く、コマーシャルの長さに制限はありません。本番組のようなインフォーマーシャル的な作り、内容でも何ら問題はありません。

ただ、番組をよりよい内容にするには、ロボットのことを語るMC、例えばお笑い芸人を立て、興味をそそる番組運びにできればよいのではと思いました。鉄道関連の番組を見ますと、車両のことや路線のことに詳しい鉄道好きお笑い芸人が出てきて、解説や説明が大変うまくされており、番組作りの参考になるのではないのでしょうか。また、芸人とタイアップすれば、お互いに認知度向上にもつながり、番組内容もシリーズ化しやすくなるのではないのでしょうか。

昨今A Iの分野に興味が集まっていることから、ロボットをキーワードにした番組は、ちょうど時流にマッチしたテーマで、面白い展開になるだろうと思います。

委： 大学の教育現場に携わる者として見たのですが、全国大会に優勝した武田君のような子どもが、今後学校、企業から求められる人材に成長して行くのだと思いました。アクティブラーニングの効用なのでしょう、武田君は小学6年生としては、プレゼン能力も高く、大変しっかりしていますね。

ちょうど2020年には大学入試制度も変わります。これからは多様な人材が求められる社会となり、ロボット教室、俳句教室のようなところで、子どもたちを学ばせることが時代の要請に適ってくるのだと思います。このような社会的背景を番組の導入部分でおさえられると、ロボット教室で学ぶ意義がはっきりし、見る者に意図が伝わるのではないかと思います。

高橋智隆氏は、若くして権威もあり、番組に出ればもちろんよいのですが、他のところで言えば番組内でもっと女子が取り上げられると、更によくなったのではないのでしょうか。最近ではリケジョと呼ばれるように女子で理系に強い子どもが増えていることから、小さな女の子が徐々に成長する様子が捉えられて行けば、番組としてより面白くなるでしょうし、シリーズ化する意味があるのではないのでしょうか。

あと、専門的な用語ですとか、詳しい解説が必要な時は、画面上にテロップで補足説明が出ても

よかったと思いました。

局：誰に向けての番組なのか、制作側の苦勞が垣間見えました。教室の先生は明らかに大人の視聴者に対しての話し方になっていますね。子どもたちが最も関心を示すロボットについての説明が足りない。もっとじっくりロボットを見せてもいいのではと思いました。現存する昔から現代までのロボットの変容のさまをじっくり見せ、今教室で子どもたちが作っているロボットへどのようにつながって行くのか、子どもたちが視聴者だということをより意識、想定して、わくわくするような内容を盛り込んでもよかったのではないのでしょうか。

委：先にロボット芸人を起用すればよいのではという意見が出ましたが、その通りで、番組にもっとバラエティー性を持たせれば、とても面白くなる可能性があると思います。マニアのような人から、そうでない人まで、ロボット好きな人は多いと思います。これも先に出ましたが、ロボットの原型となる江戸時代のからくり人形から始まって現代のロボットに辿って行く解説を入れるともっと楽しくなると思います。

局：本日いただいた意見はこれからの番組制作の参考にさせていただきます。

局：今回、合評対象番組「ロボット教室TV 第3話」については、さまざまなご意見を伺うことができました。どうも有り難うございました。

3.視聴者からの意見の紹介

局：2月末時点でのカスタマーセンター最新業務報告よりますと、視聴者からの編成に関わる感謝の声、良い評価が多く寄せられておりました。同時に、これら番組のリピート枠を設けて欲しいとのリクエストもいくつかいただいております。具体的には、「タイムボカンシリーズ ヤッターマン」「コードギアス」といった番組について、30～40代と思われる視聴者より再放送の要望をいただいております。また、その他についても次に挙げる意見を具体例としてご紹介いたします。

- ・ 私、心臓の手術をした者で、家から出られなくて、TV見るしか楽しみがないんです。「サンライズDX」とか、「金曜夜ふかしナイト」「土曜徹夜しナイト」なんかを楽しませていただいております。これからもよろしくお願いします(50代男性)。
- ・ 「金曜夜ふかしナイト」クリーマーミのOVA、楽しみで嬉しいです。もう、ワクワクします。放送して下さいありがとうございます(40代男性)。
- ・ 「金曜夜ふかしナイト」クリーマーミのOVAを見て、でこの作品の素晴らしさがわかりました(30代男性)。
- ・ 地上波やBS・CSの他のチャンネルでも見られるアニメだけでなく、なかなか見られない昔の懐かしい作品(例えば以前放送していた「空手バカ一代」等)もバランスよく放送してほしい(40代男性)。
- ・ 今は「アンパンマン」「ポケモン」「妖怪ウォッチ」等が流行で3歳と5歳の孫達も夢中で見ているが、全て「戦い」を描いている。そうではない作品もあるという事を是非知ってもらいたいので、昔の名作(「家なき子」「宝島」等)を放送してほしい(50代男性)。

以上、2月度は編成に関する視聴者からの意見が合計15件あり、その内よかつたとの意見が9件、その他の意見が6件ありました。それぞれ今後の編成を考える上での貴重な参考意見として賜りました。

局：これにて、本年度第4回番組審議会を終了させていただきます。有り難うございました。

以 上